

令和6年4月13日（土）～6月16日（日）



- ・ 見ていて楽しい、多様で多彩な現代美術作品を多数展示
- ・ 現代社会の問題に呼応するアーティストたちのユニークな表現を紹介
- ・ 手塚愛子、鬼頭健吾、西村一成、宮田明日鹿、額田宣彦など気鋭の現代美術作家の未発表作品を展示

名 称 : 令和6年度企画展「ひらいて、むすんで」
 主 催 : 岡崎市美術博物館、中日新聞社
 会 期 : 令和6年4月13日（土）—6月16日（日）
 休 館 日 : 毎週月曜日、4月30日（火）、5月7日（火）
 *ただし、4月29日（月・祝）、5月6日（月・祝）は開館
 開 館 時 間 : 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
 会 場 : 岡崎市美術博物館 〒444-0002 愛知県岡崎市高隆寺町峠1 岡崎中央総合公園内
 TEL 0564-28-5004／FAX 0564-28-5005／HP <https://www.city.okazaki.lg.jp/museum/>
 観 覧 料 : 一般[高校生以上] 1,000 円（900 円）／小中学生 500 円（450 円）
 *展覧会限定フリーパス「Limi-pass（リミパス）」は1,500 円
 *（ ）内は各種割引および20名以上の団体料金
 *各種障がい者手帳の交付を受けている方及びその介助者1名は無料（各種手帳を提示）
 *未就学児は無料
 *岡崎市内在住・在学の小中学生は無料（証明書をご提示いただく場合があります）

【展示作品作家】

井口直人、植松ゆりか、0 JUN、岡崎乾二郎、岡部志士、岡村桂三郎、鬼頭健吾、国島征二、
ゴードン・マッタ・クラーク、サム・フランシス、ジョアン・ミロ、染谷亜里可、ツァイ・チャウエイ、手塚愛子、中島
晴美、西村一成、額田宣彦、ハンス・ベルメール、真坂亮平、三科琢美、宮田明日鹿、村瀬恭子

【 展示構成 】 ※予告なく変更する場合があります。

第1章 開くこと、閉じること

本章では、「ひらくこと」「とじること」を要素として備えている作品を紹介します。球体に水玉模様が特徴の陶磁器を制作する中島晴美の作品は有機的な形態の連続により、開くことと閉じることが同時に行っています。国島征二による本や腕時計や手紙といったプライベートな所有物を束ねてアクリルで固める「Wrapped memory」シリーズは、タイトルどおり「包まれた記憶」として閉じると同時に、それを作品として提示することで、いわば閉じたまま開いています。ぬいぐるみを切開し、中の綿を抜いて裏がえしたり額縁に入れて絵画にする植松ゆりかは、それらを用いて動物を生贄に捧げる祭壇を造ることで、自身の閉鎖的な精神世界を開いてゆく作品を制作します。アーティストが作品をとおして主体と他者、個と世界を繋げる試みを概観します。

【展示作家】植松ゆりか、国島征二、染谷亜里可、手塚愛子、中島晴美、西村一成、ハンス・ベルメール



②植松ゆりか《テナガザル》2019 年
／作家蔵



③ 国 島 征 二 《 Wrapped Memory-
Bijutsutecho Jan. March. June 1969》1969
年／当館蔵



④西村一成《不幸よ不幸、幸せか》2006 年／
作家蔵

第2章 越境する、接続する

本章では、本来は接点がないもの、従来では関係しえなかったものを創作行為によって接続しようとする作品を紹介します。宮田明日鹿は女性が行うものとされ美術から排除されてきた手芸を、敢えて美術の場所で「手芸部」として行うことで手芸や日常的な創作活動に内在する造形性を見なそうとします。井口直人は自身の趣味と記録のために長年コンビニで自身の持ち物と顔をコピーするライフワークを行ってきましたが、近年その活動が注目され、現在では他者とのコミュニケーションとしてゲストと顔のコピーを行います。アーティストが自身の模索した表現方法で様々な方法で他者や世界と接続を試みた作品を概観します。

【展示作家】井口直人、0 JUN、岡崎乾二郎、岡村桂三郎、鬼頭健吾、ゴードン・マッタ・クラーク、
サム・フランシス、宮田明日鹿、村瀬恭子



⑤村瀬恭子《Sherbet》2008 年／当館
蔵



⑥0 JUN《童子日光図》2002 年／当館蔵



⑦井口直人《Untitled》2018 年／作家蔵

第3章 ナラティブと縫合

本章では「縫合」をキーワードにして、私たちが他者との関係や自己の認識において無意識に「繋ぐ」という作業を行っていることや、一見関係のない出来事にも繋がりがあるということについて考えます。手塚愛子は江戸後期の鎖国を調査し、当時開国によって劇的に変化した日本人の生活や文化の状況と、現代のインターネットにおける仮想空間にて世界に開かれ、世界と繋がる状況を重ね、刻々と変化する日常への期待と不安を織物で表現します。真坂亮平は片方しかないピアスと「彼女はもうひとつピアスをこの部屋で無くした」という文字と併せて展示することで、見るものにとってただ何もない場所が、無くしたピアスがあるかもしれない場所へと新たな関係を生み出します。ツァイ・チャウエイによる筆で円を書いてそれが滲んで消えるという映像作品は、何もないところに新しいかたちを生み出して消えてゆく様をとおして、部分が全体と繋がることを考えさせます。私たちが日々行っている「自分を語る」という表現には様々な「縫合」によって成り立っているということを考えます。

〔展示作家〕岡部志士、ジョアン・ミロ、ツァイ・チャウエイ、手塚愛子、真坂亮平、三科琢美、額田宣彦



⑧手塚愛子《弛緩する織物》2005年／当館蔵



⑨ツァイ・チャウエイ《円Ⅱ》2011年／森美術館蔵



⑩真坂亮平《SHE LOST ONE OF HER PAIR OF DIAMOND EARRINGS IN THIS SPACE》2011年

【 関連イベント 】 ※予告なく変更する場合があります。

【講演会】 要事前申込

アーティスト・トーク〈手塚愛子×宮田明日鹿〉

「閉じたり開いたり そして勇氣について」

聞き手：今泉岳大（当館学芸員）

日時：4月13日（土）午後2時～3時30分

場所：当館1階セミナールーム

参加費：無料

申込締切：3月15日（金）必着

定員：50名

申込方法

- ・あいち電子申請（ネット申込）は当館 HP から
- ・はがきでの申し込み

はがき裏面に、参加者全員の郵便番号・住所・氏名・年齢（学年）・電話番号を記入の上、お申し込みください。

※はがき1枚につき申込は1件まで。1度の申込みは2人まで。申込者以外の参加不可。

申込先：〒444-0002 岡崎市高隆寺町峠1 岡崎中央総合公園内

岡崎市美術博物館「ひらいて、むすんで展」イベント係

【ワークショップ1】

a. 「出張手芸部！in 岡崎」 with 宮田明日鹿（本展出品作家）

4月28日（日）、6月15日（土）

b. 「破ったり、つなげたり描くことの不思議さを体験しよう」 with 三科琢美（本展出品作家）

5月5日（日）

c. 「コピー機を使ってつくるラミネート下敷」 with 井口直人（本展出品作家）

5月18日（土）

d. 「ひとつ上をいく缶バッジ」

6月2日（日）

いずれも午後1時30分～4時30分まで随時開催

定 員：なし。当日混雑する場合は制限する場合がございます。

場 所：当館1階ホワイエ

参加費：無料

申 込：不要

【ワークショップ2】

「みんなでつくる！毛糸をむすんでつなぐインスタレーション」

来場者が継ぎ足してゆくことで増殖する、毛糸を使ったインスタレーションを館内に設置します。

日 時：会期中随時開催

場 所：当館1階ホワイエ

参加費：無料

【ギャラリートーク】

日 時：①4月29日（月・祝）、②5月25日（土）、③6月9日（日）

各日とも午後2時～3時

場 所：当館1階展示室（開始時刻までに展示室入口前にお集まりください）

参加費：無料 ※ただし、当日の観覧チケットが必要

担 当：当館学芸員

*展覧会カタログは5月下旬からの販売を予定しております

【問合せ先】

岡崎市美術博物館 〒444-0002 愛知県岡崎市高隆寺町峠1 岡崎中央総合公園内

TEL 0564-28-5004 / FAX 0564-28-5005 / E-mail: bihaku-kikaku@city.okazaki.lg.jp

展覧会担当：今泉岳大

